

## 鹿玉中学校 軟式テニス部へ行ってきました！

「とてもいい部活がありますので  
是非取材に来てください。」  
がんばる部活、“初リクエスト”です。



8月5日、午後の練習に  
お邪魔いたしました。



「パコーン」  
「パンツ」  
「ボン」  
乾いたコートの上をバウンドする  
ゴムボールの音が聞こえます。

テニスコートは、学校正門横に3面あり、  
職員室からも一望できる所に位置しています。  
今は夏休み中なので、学校内はとても静かです。



<顧問の村松孝則先生>



「気がついたら20年も軟式テニス部の顧問をやっています。」  
と笑いながら話してくださいました。

「楽しんで、のびのびと活動させる」といった  
先生の部活でのモットーは随所に現れていました。

まず驚いたのが、「球拾いは1年生の仕事ではない」です。  
かこのボールがなくなると全員で拾います。



私が持っているテニス部のイメージは、  
1年生は「球拾い」「素振り」「体力づくり」、  
2年生、3年生でようやくコートに出られる  
というものでしたので、意外でした。

ソフトテニスを楽しむことにおいては全員が平等であるし、  
ラケットを持った時間が試合においても最終的にモノを言うため、  
なるべくラケットを持たせているそうです。



ある年、テニス部を退部した生徒が、  
他の部で生き生き頑張っているのを見て、  
テニス部でこの子を生き生きと  
させてあげられなかったのは何故だろう？と考えたそ  
うです。

練習の加減はいくらでもすることができるのに、  
自分で決めたやり方に自分が縛られていたことにハツとし、  
練習のやり方にアレンジが加わっていったそうです。

<休日もコートに出てくる生徒>

部活の練習は、乱打・サーブレシーブ・ゲーム形式の  
大枠の流れはあっても、ある程度好きに打たせるようにしているそうで、  
生徒は楽しめる“ゆとり”をもっているようです。



休憩中、  
どの生徒に聞いても練習はおもしろいと言いました。

どんな聞き方をしても、答えは同じでした。

先生や部に関してグチがないということは、  
先生のモットーが実践されているということだと思いました。

休日、学校のテニスコートに遊びに来てしまう  
生徒もいるというのは、その裏付けのようでした。

### <1人ひと役>

部長

副部長

ボール記録係

ボール係

テーブル係

ホワイトボード係

キッチンタイマー係

メガホン係 などなど



2～3名でも充分こなせる仕事をあえて細かく分け、  
「1人ひと役」を決めているそうです。

しかもその「ひと役」は、上級生に割り振られています。  
部活の準備・片付けは、

誰の仕事ということではなく、  
プレイするみんなの仕事です。

これをしないと練習が始められない大切な仕事だから  
「上級生にひと役」をつけるのだそうです。

些細な仕事であっても、  
自分がいないと支障が出るという状況を作ることが狙いで、  
この秘策は、所属意識を高めることにもつながっているようです。

<鹿玉を磨く>



校訓でもある言葉です。  
“鹿玉の鹿は無限の光と可能性を秘めた  
まだ磨かれていない”  
という意味を持った言葉だそうです。

生徒を「鹿」にみたて、  
「考え」「行動し」「思いやる」という磨き方で  
きれいな光る玉にしたいという言葉に  
思いを馳せ、いろいろな優しさを感じました。

この他にも、校内古墳や、  
ビオトープ、多くの木に囲まれた運動場などが  
ありました。



コートを整備を終え、



挨拶をして今日の練習が終わります。

**<先生からのメッセージ>**

It's a long lane that has no turning.

「夜明けの来ない朝は無い」

シェイクスピアのマクベスの一節で、  
尊敬する人から教えてもらった言葉だそうです。

どんなことがあっても、腐らずに取り組むことが大切だよ。

チームで揃えたTシャツの

バックプリントにも印刷されています。

先生の優しいまなざしが伝わってくる一節でした。



(取材 本間)